

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2770302202		
法人名	社会福祉法人 月の輪学院		
事業所名	グループホーム つかさの家		
所在地	大阪府寝屋川市仁和寺本町2-3-5		
自己評価作成日	平成 30年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2770302202-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2770302202-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 12月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ、管理者の長年の目標であった、つかさの家での看取りを家族さまの強い希望もあり、医師、及び看護師、スタッフ共協力し家族に見守られながら看取りをおこなう事が出来た。初めての経験で、感じたそれぞれの想いを皆で整理し共有することで、さらに自分達が利用者及び家族の想いに添える施設づくりを目指したい。

長年、障がい児・者の支援事業を運営している法人が、子どもから高齢者まで一貫して福祉サービスを展開しようと設立したグループホームです。豪邸を改装したホームは閑静な住宅地の一角にあり、地域住民による手入れの行き届いた庭園では四季折々の景色を楽しむことができます。「皆それぞれ自分らしく自分の声で笑ったり泣いたりできる家」を理念のひとつとし、職員は、利用者の個性を大切に日々の支援にあたっています。チームワークのよい職場環境で離職者も少なく、経験豊富な職員の支援によって安心できる毎日の暮らしとなっています。法人全体で事業を支え、理事長はホームに頻りに足を運んでいます。管理者が看護師であることは、利用者・家族・職員の安心に繋がっています。専従のキッチンスタッフが作る美味しい食事も利用者の楽しみで、「利用者・職員が美味しく食べている姿」もホームの自慢のひとつです。管理者は職員の支えに感謝し、職員は管理者の職務に敬意を払う職場環境の下で職員が支える利用者の暮らしは、いつもどこからか笑い声が聞こえる、ほのぼのとした温かい雰囲気のグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>                      地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>利用者の状況ニーズの変化に伴い「私達の理念」として毎年、パート職員、キッチンスタッフも含め、誰もが心に刻める具体的な言葉を考え、就労中は全員に携帯してもらうこととしている。事業所内に、利用者にも目につくところに掲示している。</p>	<p>法人理念を基に「私たちの理念」を毎年、職員全員で作っています。今年は「ここにおいて幸せですか？かえってくる言葉がほほえみでいっぱいになる家」「皆それぞれ自分らしく自分の声で笑ったり泣いたりできる家」を理念としています。理念は、利用者の手書きの書で、ホーム内に掲示しています。また、職員は理念を携帯し、日々の支援に活かしています。利用者の個性を大切にしたい理念の実践は、ホーム内の生き生きとした利用者の表情にうかがえます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	老人会の方が、畑で収穫した玉ねぎやじゃが芋を施設に差し入れに來られたり、自治会主催の祭りや、清掃、消防訓練などに参加して、交流を深めている。子ども会などに協力し、新聞・雑誌等を回収に出させてもらっている。	町内会に加入し、回覧板や地域行事の案内も受け取っています。地域で行われる夏祭り、秋祭りには利用者と一緒に参加し、地域の防災訓練には職員が参加しています。ホームのキッチンスタッフとして地域住民の方が働いており、ホームの庭園の手入れも地域の方がボランティアで参加しています。近隣の住民とは顔なじみの関係ができており、6月の地震、9月の台風時などは利用者の安否や建物被害などについても「大丈夫？」と声をかけてもらいました。ホームは広報誌を地域に直接ポスティングするなどを通して、ホームでの利用者の暮らしを伝える取り組みをしています。今後は、子どもや障がい者を含めて地域で暮らしている多くの人々と交流ができる社会資源となっていく取り組みを進めていく考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	定期的に「つかさだより」を地域の人々に発行している。 毎週金曜日(週1回)つかさのブログを発信し、インターネットを通じて広く事業所を知ってもらえるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催し、退居された利用者の家族にも参加して頂けている。会議の話し合いの中でメンバーである民生委員、自治会の方の声掛けで地域の方々にAEDの講習を行うことになった事例がある。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回開催しています。市議員、自治会長、老人会長、民生委員、家族代表、市担当者、地域包括支援センター職員が参加し、ホーム運営について活発な意見交換が行われています。会議では「身体拘束適正化委員会」を合わせて行い、身体拘束について参加者全員で学習する機会となっています。</p>	<p>「運営推進会議設置要綱」を作成していますが、参加者への守秘義務についての項目等を追加し、新たに作成して、参加者に周知されてはいかがでしょうか。</p>
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとは連絡を取り、困難事例も受け入れるように努めている。                      市の福祉課の担当の方とは日頃から相談できる関係作りが出来ており、入居に際し、施設で包括や市の職員と会議を開催する機会があった。</p>	<p>運営推進会議に市の担当者の参加があります。地域包括支援センターより、自宅での生活が難しくなってきた方の入所依頼があり、受け入れに際して市の担当者、地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は鍵・門扉はあいており、施錠はしていない。                      身体拘束及び権利擁護について地域運営推進会議でも話し合い、法人の理事長・施設長と共に、再度勉強会を持つことができた。勉強会の中で職員にはセンサーに頼らない方法を話し合う機会を設けている。</p>	<p>フロア内に「身体拘束排除宣言」を掲げています。日中は門扉、玄関は開錠しています。利用者は、玄関前の大きな庭園にフロア内から自由に入出入りしています。「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、定期的に研修を行っています。「身体拘束チェックシート」を作成し、スピーチロックも含めて支援の内容が不適切でないかを毎月チェックするなど継続的な取り組みを行っています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者やリーダーが中心となって、言葉遣いなど（スピーチロック）気を付けてみている。また、スタッフひとりひとりと話し合う機会をもっている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人を利用されている利用者が2名おられ、施設に来られる機会があり、交流を深める中で学ぶ機会がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は必ず事務職員も同席し、利用料に関する具体的な不安なども説明を行い、理解してもらっている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>                      利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>必ず1ヶ月に1回家族に手紙を出し、利用者の状況を伝えた上で面会の際に疑問や不明、不安な点についてお聞きしている。                      意見箱を設置している。                      遠方の方とは毎月、手紙のやりとりがある。</p>	<p>毎月1回家族に利用者の写真を添えて担当職員が手紙を書いています。手紙は利用者の生活の様子がよくわかると好評を得ています。施設便りも毎月作成していましたが、現在は年に4回発行とし、ホームのブログを開設して内容を随時更新して家族に伝える手段としています。季節ごとの大きな行事には家族に参加を呼びかけて、行事終了後に家族の交流会を開催して意見や要望を把握するように努めています。利用者からの意見を尊重し、苦情として取り扱い、職員間で利用者に安心してもらうために検討した事例があります。「認知症の人が言うから」で済ませない職員の意識です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング(月例会)は1カ月に1回行なって職員の意見を聞くようにしている。法人の代表者は必ず週に1回は事業所に顔を出し、利用者、スタッフとコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気を作っていたらいい。施設の整備や運営に関しても職員の意見を反映している。</p>	<p>毎月の月例会で職員の意見を出し合っています。管理者は、会議のほか、日常的に職員の意見や要望を聞いています。管理者は職員の支えに感謝し、職員は管理者の職務に敬意を払い、お互いの信頼関係が築かれています。職員の自主性が尊重される職場環境は、職員の士気を高め、離職者も少ない状況です。職員の工夫をホーム内のあちこちに見ることができます。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は職員が働きやすい環境づくりを第一に考えて管理者やリーダーと話し合う機会を設けている。その際には給与や資格手当、時間外手当等についても素直に意見交換している。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は管理者と話し合い、本人の力量に応じてステップアップする研修の機会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の交流の場を設け、また、他施設への見学、体験実習も行う事も継続している。必ずその際は、施設で勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前は本人宅に訪問し、本人が生きてきた生活歴を本人の話をじっくり聞きながら知り、その上での不安な点や要望を知るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、今現在困っていることや不安な事を聞き、施設入所だけの観点から耳を傾けるのではなく、様々なサービスを視野に入れながら、人対人で接するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居を含め、在宅でのサービス他、本人・家族にとって今現在の時点で必要としているサービスを見極め支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>グループホームは「家」ということを念頭に置いて、本人も家で暮らしていく支え合う仲間だという関係作りを目指している。</p>		
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様は共に利用者を支え合う関係なので疎遠にならないよう、毎月手紙で状況をお伝えしたり、電話をしている。利用者様から手紙を書いてもらったり、旅行や定期的な外泊もしてもらっている。</p>		
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方が必ず1ヶ月に1回訪問してくれる方もおり、手紙の交流もある。本人が良く通っていた定食屋に行くこともあった。</p>	<p>職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。知人が訪れてくれる利用者、墓参りに行く利用者等がいて、職員は少しでも長く継続するよう支援しています。また、入居後の新たな馴染みの関係づくりも大切にし、新しく入居する利用者は歓迎会を開いて迎えています。亡くなった利用者の家族から桜の木をもらって庭に植え、利用者の名前をつけ、皆で偲ぶこともあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日中は部屋で過ごされる方は少なく、馴染みの関係になっている。 散歩などを一緒に行くように努め、自然な関係性が出来ている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居された方の家族が運営推進会議に参加していただいたり、手紙・電話でのやりとりを継続している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p><b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当のスタッフを決めて、本人の状況に応じ、暮らし方の希望を把握し、個別に支援している。本人の意向が困難な場合にはスタッフ間で話し合い統一した支援に努めている。朝食の時間などを個別に本人の暮らし方に合わせ、時間をずらしている。入居して1週間は白紙の紙に気づいたことを書くようにして、支援のヒントにしている。</p>	<p>職員は、利用者との何気ない会話や動作から本人の意向や要望を把握し、管理日誌や介護記録に残し、職員間で共有しています。「皆それぞれ自分らしく自分の声で笑ったり泣いたりできる家」を理念のひとつとし、利用者が喜怒哀楽を表現できる暮らしを作っています。離職者が少なく、利用者と職員の馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。管理者は職員に「利用者本人の意向が把握でき難い時は、最初の原点に戻って、何が好きだったか・どんなことを喜んでいただのか思い出すこと」を伝えています。利用者の暮らしぶりを書いた手紙を毎月家族に送ることで、職員は「利用者を意識して見つめる技術」を獲得しています。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の生活歴などは家族・本人様から話を聞き、支援に役立てている。遠方の方は毎月手紙のやりとりをし、馴染みの暮らしを把握するよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、得意なことを知るよう努めて、自由な暮らしを支えるように、利用者ひとりひとりと一緒に時間を過ごすよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと担当スタッフが中心となって、利用者ひとりひとりの支援の方向性を1か月に1回話し合い、介護計画の作成に努め、モニタリングなども2か月に1回行っている。 利用者にも望む暮らし、したいこと、出来ることをお聞きしている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは2ヶ月毎に行っています。入居後、数日と状態に変化があった場合は、24時間生活変化シートを記録し、アセスメントに活かしています。計画作成担当者は介護計画にあたり「利用者本人が思い描いた暮らしを実現する計画」を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、状態に変化がある利用者は管理日記に記入することで、職員間で情報を統一し、そこからの気づきで日々支援の方法を皆で考え実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個室でのプライベートの空間を基本としているが、一人であることへの孤独感で不安や、不穏が強くなる利用者には共有スペースの和室を使用し、2人部屋として活用している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のふれあいサロンに参加させていただき、利用者の楽しみとなっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を優先し、入居前からのかかりつけ医を希望される場合は、継続している。必要に応じて家族にも同行してもらっている。通院が困難な場合には、協力医の定期受診を受けたり、今年からは訪問診療にも個別で来てもらっている。</p>	<p>入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。受診の際には、本人の日常生活をよく知っている職員が付き添うこともあります。ホームの嘱託医の往診は月1回です。訪問診療を個人で契約している利用者もいます。日常の健康管理はホームの看護師でもある管理者が行い、状態に変化があればそのつど嘱託医や主治医に連絡し、往診や指示を受けています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者が看護師を兼務しているため、日々の健康状態の把握が出来る。通院も必要時には付添い、病状の変化に対応し、その都度、家族に説明している。医師との情報伝達もスムーズに行えている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の相談員との窓口は管理者が看護師及びケアマネージャーを兼務しているため、中心となって入院から退院まで情報の共有、交換、相談を行い家族との連絡、カンファレンスなども担当の職員と共に出席している。面会は必ず、行くようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り希望の方がおられ、家族と話し合い、細かい意思、確認書の元、職員・訪問の医師と連携し、1名安心して納得した最期を迎えられた方がいる。亡くなられた後も家族、スタッフと話し合う機会も設けている。</p>	<p>重度化対応については都度、家族と話し合いながら対応しています。「看取りケア（終末期における看取り介護）指針」を作成しています。終末期に関しては、家族・医師・職員で改めて話し合います。今年、ホームで初めて看取りを実施しました。実施に際して、支援の方法、家族と医師が確認された事項の統一等、職員間で情報を共有しながら行いました。「ご家族さまとの共有ノート」を作り、家族の思いや不安等を理解することも心がけました。看取り実施後は、関わった職員全員が「看取りケア確認シート」で振り返りも行いました。管理者は、職員のメンタルケアにも配慮しました。家族に喜ばれたホームでの看取りの経験から職員は貴重なことを学び、日常のケアに活かしています。</p>	<p>看取りのマニュアルが作成されていますが、看取りの支援を経験した職員の意見や感想など、話し合いを重ねて「看取りマニュアル」の改訂を今後検討されてはいかがでしょうか。</p>
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当普及員の資格を持つ職員の元、地域の方々に応急手当及びAEDの使用方法について講習する機会があった。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>様々な災害に備えて年二回の避難訓練の実施や、各職員の自宅や移動手段を考慮したうえでの連絡体制の整備等、常に具体化を意識し取り組んでいる。防火管理者以外の職員も防火管理の資格取得を積極的に行っている。地域運営推進会議では、実際の地震、台風等での被害の報告や対策のアドバイスをいただくと共に万が一の時に避難所として当法人の使用をもらうよう地域の方々にすすめている。災害時の備品は各階、ガレージに保管しており必要物品の買い足しは随時行っている。</p>	<p>非常災害時対策について、重要事項説明書に詳しく記載し、入居の際、本人や家族に説明しています。消防署指導の下での避難訓練も実施しています。避難訓練には家族の参加もあります。地域での避難訓練にも参加しています。今年6月の地震、9月の台風の際は、近隣住民が安否を気遣ってくれました。運営推進会議でも、災害時の対策の助言をもらっています。非常用の水や食料品、災害グッズ、防災頭巾等、災害に備えています。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者ひとりひとりの自己決定を優先している。 本人を年長者として、尊敬の念をもって接し、家族のようであっても慣れ合いにならないように努めている。トイレ介助や入浴介助のときは特にプライバシーに配慮しさりげなく無理強いしない自然な声掛けを徹底している。</p>	<p>管理者は職員に「親しみの中にも礼儀を忘れない関わりの大切さ」を伝えています。職員は、一人ひとりの個性を尊重し、本人の気持ちを大切にし、さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけをしています。排泄や入浴介助の際のプライバシーへの配慮も心がけて日常のケアを行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>1対1の散歩や毎日の暮らしの中で本人の思いを表出できるようゆったりとした安心した環境づくりを整えている。そばにすることを大切にしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝食と、眠る時間などは違っている人がいるため、ひとりひとりの生活ペースに合わせて、本人のそれぞれの得意な役割をもってもらっている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の希望に合わせてカットや白髪染めをしている。それぞれの化粧ポーチがあり、したい人にはしてもらっている。服も一緒に買い物に行き好きな服を着てもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>料理を担当キッチンスタッフが、一人一人の好みや食事量・形態は個別にアレンジしてくれている。</p> <p>お茶の準備、箸やおしぼり、片付けなどできる人はスタッフと一緒にしている。スタッフは同じテーブルと一緒に食事をしている。手作り料理、リクエスト料理などは月一回実施し、スタッフと利用者が一緒になって作っている。</p>	<p>管理者以下職員は「美味しく食べることは生きること」を食の支援の基本としています。キッチンはダイニングと接しており、食材を切る音や匂いが漂い、利用者の五感を刺激しています。食事は3食ともホームで作っています。材料は業者から届けてもらっています。専任のキッチンスタッフが利用者が食べやすい食事を工夫しています。リクエストメニュー、郷土料理、正月のおせち料理、敬老祝賀会の特別メニュー等、様々な工夫で利用者に喜んでもらっています。水分が飲みにくい利用者には、ゼリーの工夫もしています。おやつを利用者と一緒に作ることもあります。職員も全員、利用者と同じものを食べながら、さりげなくサポートしています。食事が美味しいこともホームの自慢の一つで、利用者から「美味しい」との声が聞こえ、和気あいあいとした食事風景となっています。毎日のメニュー書きは利用者が担当しています。利用者の食事に対し前向きな努力を惜しまないキッチンスタッフの姿勢は、利用者だけでなく職員にもいい影響を与えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに応じた量を工夫し、キッチンスタッフと看護師、介護スタッフとが話し合う機会を作っている。水分も、飲めない人には果物やゼリーなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきを実施している。義歯の利用者は、夕食後に預り洗浄している。毎週1回、訪問歯科を取り入れ、その際にブラッシングの方法、むせやすい人への口腔ケアの方法など指導してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、個々に応じた声掛けを行っている。トイレでの排泄を大切に車椅子の方でも日中は紙パンツでトイレに座ってもらっている。 個々に応じたオムツを使用している。夜間、頻尿の人が安眠できるよう、オムツの検討を何度か話し合い不安を減らした事例がある。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄状況を細やかに記載して自立支援に活かしています。職員は利用者の排泄パターンに応じてさり気なくトイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。頻尿で安眠できなかった利用者に対して、介護方法を検討していき、本人に適した紙おむつを使用し、安眠できるようになった事例があります。結果、睡眠導入剤を減らすこともできました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤をなるべく使用せず、オリゴ糖やヨーグルト、牛乳などを使用している。医師の指示で浣腸をしている利用者も1名いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1回、入浴の支援を行い、1対1の個別支援で行っている。入浴拒否が強い利用者には、根気よくスタッフが2～3名、それぞれ役割をもって入浴している（誘導、衣服の着脱、入浴中の介助など）。夕方に希望で入る人もいる。	利用者は2～3日に1回の入浴です。シャンプーなども利用者の好みのものを使うことができます。風呂場では、それぞれ好みのシャンプー・ボディシャンプー等がたくさん並び、個別ケアの実施状況を見ることができます。入浴を好まない利用者には、言葉のかけ方、タイミング、気分など見計らい、工夫して入浴を促しています。利用者の重度化に伴い、利用者が安心して湯船に浸かれる座位浴の導入も検討されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、午睡する人が多いが、リビングでウトウトする人も多い。誰かが側にいて安心する利用者には、なるべく近くにおいて見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明のファイルは誰もが見られるようにファイリングしている。薬の変更・開始などの際は必ず管理日誌に記載し、症状の変化を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症が重度化しても本人が好きだった歌を流したり、好きな食べ物を工夫して食べて貰っている。五感を大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて、個別外出を行っている。重度化し、車椅子になっても、短時間庭に出たり、散歩に出たりし、五感刺激になるよう努めている。 外に出るのを利用者も根気よく誘う内に自分から外に出てくれる事例もあった。	毎日、利用者の状態に合わせて散歩をしています。地域の行事にも積極的に参加するようにしています。個別外出では、何が食べたいか希望を聞き、利用者・職員、1対1で外出します。初詣、桜の花見、秋の紅葉など季節ごとの外出にも取り組んでいます。広い庭園に出るの外気浴では、天候や季節を感じています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい人には財布を渡している。また、宝くじを持つのを楽しみな人には渡している。買い物に行くときは自分で支払ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族とは定期的に手紙のやりとりをしている。電話も本人が望めば自由にできるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中過ごす空間からは庭が見え、季節の花を楽しむことが出来、窓も開放して季節の風を感じてもらうことができる。家を改装しているので自分の家と思っている利用者がある。食事を作る音や、匂いを狭い空間の中で感じる事ができる。居間やリビングにかざられるものは基本、手書きである。自分の居場所がリビング、ダイニングでそれぞれあり、テレビを見たり、塗り絵をしたり個々にくつろいでいる。	一般家庭として造られた大きな家を利用者が生活しやすいように改修し、これまで一般の家庭として持っていた温かみやくつろぎの空間を活かした造りのグループホームです。地域住民による手入れの行き届いた庭園は四季を感じる事ができます。テラスに続く広い庭に面したリビング、ダイニングには陽射しが差し込み明るく暖かく、ゆとりがあります。ホーム内には、季節を感じられる飾りやイベントや外出時の写真が飾られています。ソファの位置にも配慮し、利用者はゆっくりくつろぐことができます。ダイニングはキッチンとつながっており、ご飯の炊ける匂いがし、食事の準備の音が聞こえ、家庭的な雰囲気です。見学の際、「おうちの中を見せてください」と言葉をかけてしまうような暮らしを感じる雰囲気です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファがあり、時にはそこで横になれる方もいる。</p> <p>利用者同士で適度な距離感を保ちながら、話しやすい空間が自然に出来ている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物をなるべく部屋に持ち込んでもらい、本人の好きなように置く場所も決めてもらっている。</p> <p>施設で絵をかいたり、作ったものもなるべく置くようにし、居心地よく工夫している。</p>	<p>本人が気持ちよく安心して過ごせる居室づくりを大切にしています。居室のベッド、エアコン、カーテンはホームが用意し、利用者はテレビ、タンス、家族の写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、安らげる居室となっています。利用者が書いた絵や手作りの作品などを飾り、それぞれの好みに合わせた居室づくりを支援しています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>家を改装しているので、段差はあるが、利用者がつまづくことはなく、声掛けや視覚に訴えるテープなどを貼って、安全に過ごすよう努めている。</p>		